

第1回網走川河川整備計画検討会 議事要旨

日時：平成24年3月27日(水) 13:00~15:10

場所：網走市市民会館 大会議室

事務局より開会の挨拶及び委員の紹介の後、本検討会の委員長として渡邊委員が推薦され、満場一致で承認を得た。その後、事務局から、「河川整備計画策定の手続きについて」、「河川整備基本方針の内容について」、「流域及び河川の概要について」、「河川整備の現状と課題について」の説明を行い、以下のような議論が行われた。

■河川整備計画策定の手続きについて

委員) 原案を作るにあたり、地元関係者の意見はどのように取り入れられるのか。地元関係者の意見は、当検討委員会でもその内容を確認出来るのか。

事務局) 地元説明会での意見聴取、HPでの縦覧による意見聴取及び公聴会を開催して口述頂く等の手続きがあり、意見を聴くことになっている。

事務局) 住民への説明会は、住民の意見をより広く提出してもらうための場であり、関係住民からの意見は、HPや公聴会などの場で意見を聴くことで考えている。また、北海道知事に照会をかける段階で、北海道の関係部署に意見照会をかける。これらの手続きの中で関係利水者、関係漁業者の意見を聴くこととなる。

委員) 北海道知事や関係自治体の意見を求めるのであれば、検討会に北海道や市町村も入って議論した方が良いのではないか。

事務局) 案策定時に北海道や関係自治体と調整を実施しており、過去の事例では北海道知事から反対等の意見はない。

■河川整備基本方針の内容について

各委員からの意見無し

■流域及び河川の概要について、河川整備の現状と課題について

委員：事前意見) 治水に対する整合性と環境視点との整合性を図り検討を進めるべき。流域一貫の視点を持ちながら、治水、利水、環境といった川の視点だけでなく、農林水産業や観光産業などの経済行為との関係を考慮しながら、個別の整備メニューを検討すべきである。

委員) 網走湖流域の特徴として湿地・湿原が多いことから、湿地を保全するなどの対策が必要である。湿地の保全について、整備計画に反映してほしい。

事務局) 今後整備メニューを検討する際には、湿地状況も念頭に置いて検討したい。

委員) 網走川では、蛇行の復元や河畔林の間引き等により、河道を適切に管理する事を目標に多自然川づくりを行っており、成果もでている。この検討会でも良い事例として、紹介して欲しい。

事務局) 次回以降の資料に反映する方向で考えていく。

委員長) 水質(SS、BOD)について、年によっては環境基準を超えていることがあるが注意点などあるか？

委員) この地域では、降水量が少なく、流量も少ないため、流域の汚濁源から汚濁物が出ると濃度が上がり、基準を超えることがある。また、これらの値は75%値であり、月1回計測しているとすると、残り2~3回はこの値よりも高い値を示していることを覚えておく必要がある。H20年以降の近年は流量が多かったため汚濁源の濃度が下がっていることも考えられ、汚濁源自体は変わっていないのではないかと。流域全体からの汚濁源のため、流域対策が必要であり、モニタリングが必要である。

事務局) 水質改善についてH16年から国、道、自治体など関係機関と一体となって清流ルネッサンスⅡ事業として取り組んでいる。水質改善については更なる努力とモニタリングを行っていく。

委員) 魚道の整備について、河道の掘削などにより通常時の河道水位が低下した場合に魚類の遡上が難しくなる可能性がある。また、小型の魚類は上れない場合もあるため、魚道の機能についてチェックし、改善が必要なものは改善することを考えるべきである。

委員長) 施設管理者にこれらの魚道整備について整備計画段階で啓蒙・啓発することは可能か。

事務局) 東幹線(S53)、西幹線頭首工(S57)は古いため、当時は魚道整備のノウハウがなく、手探りの整備であった。対象魚はさけ・ますであり、今のものよりも機能的に劣るのではと考えている。整備計画書で関係機関との情報連絡や調整・啓発などの記載が出来る

か検討したい。

委員) ヤマトシジミの生息している環境の保全のため、網走湖への塩水の遡上に関して、現状より悪化させないなどの積極的な記載があっても良いのでは。

事務局) 塩水遡上については、河川工事によってその環境を大きく改変させることがないよう、今後、先生方にご指導頂ながら、シミュレーションなどを実施し、検討会で説明していきたい。

委員) 網走川の水質は環境基準を達成しているとの話だが、網走湖のCODの7, 8は高過ぎる値を示しているため、記載の仕方を変えた方が良い。

委員) 特定外来種については、いろいろな意味で懸念されることもあるため、深刻な影響は確認されていないと記載するのではなく、注意していく必要があると思う。

委員) 植物の外来種は、クサヨシ、ハリエンジュ(ニセアカシア)などについて視野に入れた方が良い。

事務局) 文章の修正について検討し、資料については修正したもので公表したい。

委員) 河川環境の保全と治水計画の立案について、コンセンサスを図って欲しい。

事務局) コンセンサスについては、それぞれの対策についてのメリット、デメリットをこの検討会においてきちんと説明していくことによって進めていきたい。

委員) 流下能力上河道内に余裕がある区間を有効利用し、少しでも貯留効果を効かせるような河道整備を進めていって貰いたい。

委員) 治水に対して、100mmを超える洪水が頻発しているが、世界中で1日1mm以上降る雨は増加傾向にあるため、流域が湿潤状態になったうえで、より多くの雨が降る状態となるため、既往最大流量を超える可能性がある。

そのため、避難などの対策についても強調した方が良いのでは。

委員長) 北海道は気候変動の影響を特に受けやすいため考慮してほしい。

事務局) 計画を超える整備については、ハード整備は難しいが情報提供や避難対策などの

ソフト対策を充実することを考えており、次回以降説明していく。

委員) 洪水を頻繁に受けるような土地について、その利用形態を変えた事例が海外にある。参考の後ほど資料を提供したい。

■ 次回の案内

今回は、現地見学会を考えており、その上で再度ご意見を伺いたい。また今回の資料の補足について、可能なものは回答したい。(一同了解)

以上